

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年11月10日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872100995		
法人名	株式会社 トゥルーケア		
事業所名	グループホームみかん	ユニット名	1丁目
所在地	〒312-0062 茨城県ひたちなか市高場字宮原212-64		
自己評価作成日	平成27年4月17日	評価結果 市町村受理日	平成28年2月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0872100995-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年5月12日	評価機関 決 済 日	平成27年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員が笑顔で働く事で入居者様も笑顔になれると思ひ、大変な時こそ明るく入居者様のケアに努めています。限られた職員数・時間の中で入居者様の気持ちに寄り添う事を意識する事を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

医療法人を運営母体とする事業所で、家族等は気軽に事業所を訪問しており、職員は家族等に利用者の状況をきめ細かく報告する中で家族等との信頼関係を築いている事業所である。
施設長は地域密着型サービス事業所のあるべき姿の実現に向け、職員とのチームワークを大切に運営している。
利用者は職員の支援のもと、読書や絵画などの趣味を楽しんで生活している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症になった高齢者が地域の中で安心して過ごせるよう理念を作り、職員間で共有している。	職員で話し合っって作成した、「ほのぼのとしたコタツの上のみかんのような雰囲気を感じて頂ける環境づくり」や「地域の方々が、ふっと立ち寄って頂ける様に、地域との関わりを大切に」などのキーワードが入った理念を策定し、玄関や事務室に掲示して申し送り時や月1回の職員会議で再確認するとともに、職員は地域住民との日常的な挨拶に心がけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方に来荘して頂いたり、近隣地域の小中学校の職場体験の受け入れなど行い、地域の一員として協力出来る事を行っている。	地域住民に「事業所の存在を知ってほしい」「認知症についての理解してほしい」との思いで自治会に加入している。 ハーモニカ演奏や草刈り、踊りの地域ボランティアが事業所を訪問し、利用者と交流しているほか、職場体験の小中学生や近隣の保育園児の事業所訪問を受け入れている。 地域の夏祭りでは、事業所が神輿の休憩所となっており、職員は近隣住民と協力して祭りの参加者を接待している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトの職員が先日入居者様の家族向けに認知症サポーター養成講座を開催しました。今後は地域の自治会の集まり等に参加し、地域の方にも認知症を理解し支え合える地域になるよう計画しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、参加された家族・民生委員・自治会長・包括支援センターの方から色々な意見を聞かせて頂いています。また、その意見をサービスに反映出来る様努めています。	家族等の代表者や利用者、市職員、自治会長、民生委員が出席する運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、入居状況や行事結果、外部評価結果について報告している。 会議参加者からの「運営推進会議のメンバーを対象とした認知症サポーター養成講座を実施してほしい」という意見を受け、資格を有する職員が講師となって養成講座を実施している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の相談員の定期的な訪問があり、入居様へのケアに対する取組みなどを伝えていきます。また、相談員の方から他の施設の情報など頂いています。	施設長は市に直接出向いて市担当者と面会し、事業所の取組みを発信するように努めるとともに、月1回来訪する市の介護相談員を通して事業所のケアサービスの取組みを市担当者に伝えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない様心掛けていますが、現状転落等危険性がある方は家族の理解を得て行っています。出来るだけ早めに解除出来る様に職員同士で話し合い行っています。	身体拘束排除マニュアルを作成するとともに、年1回身体拘束排除研修を実施している。ベッドから転落する危険性があるという理由で、家族等の同意を得て、ベッドの2辺を壁につけ、他の2辺にベッド柵を設置しているが、経過観察記録に身体拘束3要件の検討結果を記録するまでに至っていない。 利用者が自らの意思で玄関を開けることができないよう開閉スイッチを高い所に設置しているが、経過観察記録を残すまでに至っていない。	ベッド柵設置や玄関施錠について3要件の合致について検証し、その結果を「経過観察記録」や「再検討記録」に明記していくことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	目に見える虐待の他に、目に見えない虐待がある事を職員に伝え、虐待を行わない・見過ごさないよう努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用したり、相談を受ける事は現状ありませんが、ご家族様から相談を受けた際には支援するように対応しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様やご家族等に不安や疑問が残らないよう時間を掛けて説明しています。後日疑問に思われた事はいつでも説明をします。と伝えていきます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時意見箱の設置の他、第三者機関の苦情相談所がある事を説明しています。また、事業所内に重傷事項説明書を掲示しいつでも確認出来る状況になっています。	職員は家族等に利用者の状況をきめ細かく報告し、家族等と信頼関係を築く中で、意見や要望を吸いあげている。 年1回開催する家族会で出た、「家族も外出行事に参加したいので、日時や場所を連絡してほしい」という要望を受け、家族等に行事内容を連絡している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議、朝礼、終礼時に意見や提案を聞く機会を設け反映させています。	施設長は月1回の職員会議や終礼時に、職員の意見や提案を聞くとともに、それらの内容を月1回の「ホーム長会議」で報告する中で、入浴介助時の負担軽減に向けてシャワーキャリーを導入するなど、職員の意見を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的ホーム長と話しをする機会があり、職員の状況を報告しています。また、職員が向上心を持つ為のアドバイスなどを頂いています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに合わせて研修参加を考えています。研修終了後参加した職員が講師役になり内部研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム懇親会に参加した際には、意見交換・情報交換を行い、サービスの質が向上するよう取り組んでいます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前事前調査に伺った際にご本人様からお話を聞かせて頂き、少しでも安心して過ごして頂けるよう関係作りを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談の段階からごご家族様からお話を聞かせて頂き、少しでも安心して過ごして頂けるよう関係作りを心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の時や事前調査の際にグループホームでの生活よりも他の介護サービスが相応と判断した時は関連事業所に相談しサービスが受けられる様に努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がすべて行うのではなく、入居者様の個々のレベルに合わせて一緒に行うようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけご家族様に面会に来荘して頂くようお願いさせて頂いています。その際には近況をお話しし、ご家族様と一緒に支えていく関係を築ける様努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来所して交流を図ったり親類、馴染みの方が遠方である時は、手紙や電話でのやり取りで関係を継続出来るように支援しています。	職員は利用者の親戚や知人が来訪した際に、お茶を出して接待するなど、再来訪を呼びかけている。 アセスメントシートや家族等の話から馴染みの人や場の把握に努めているが、把握した情報を記録するまでには至っていない。	その人らしく生きるためには、これまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握することが重要であると考え、把握した情報を記録するとともに、全職員で共有することが望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者様同士は席の近くに座ってお話や食事を楽しめますが、困難な場合は職員と一緒に座り孤立しないようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後相談を受ける事は殆どありませんが、状況に合わせた支援をして行きたいと思えます。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の事前調査では、ご本人様からの意向の聞かせて頂いていますが、把握が困難な場合は、ご家族様から聞かせて頂いています。	入居前のアセスメントで、利用者の思いや意向を把握している。 日々の生活の中で利用者の表情や態度から気づいた思いや意向を「生活記録」に残しているが、記載内容が日常記録に埋もれがちであり、全職員で共有するまでに至っていない。	把握した思いや意向をサインペンで強調するなど、全職員で共有して介護計画に反映していくことを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査で、職歴・生活歴など聞かせて頂いています。また、介護サービスを利用されている方には、状況に合わせて介護事業所に出向きお話を聞かせて頂くこともあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に生活記録に一日の過ごし方、心身状態等記載しています。また、職員が状況把握するため、申し送りノートを活用しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにはご家族様が参加される事はありませんが、開催前にはご家族様の意向をお聞きしています。また、カンファレンスの際には、参加した職員からの意見を取り入れ介護計画を作成しています。	利用者や家族等の意向を踏まえ、計画作成担当者が作成した介護計画案について、施設長や介護支援専門員、介護職員が参加するカンファレンスを開催し、医療関係者の意見を参考にしながら計画として確定している。 目標期間である3ヶ月に対応してモニタリングと評価を行って計画を見直すとともに、利用者の心身の状態に変化が生じた場合には、随時介護計画を見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化を生活記録に記載しています。また、職員間で情報を共有する為、申し送りノートを活用し、介護計画の見直しにも活かすようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様・ご家族様が求めるニーズに対応出来るよう色々な介護サービス等の情報収集を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が心身の力を発揮出来る地域資源が発揮する段階に至っていない状況です。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に継続して通院する方法と定期定往診を受ける選択をして頂いています。また、かかりつけ医を受診する際には、近況を家族に伝えています。	それまでのかかりつけ医への受診を希望する場合は、家族等の付き添いを基本とし、それ以外は月2回の協力医療機関による訪問診療にて利用者の健康管理に努めている。 家族等が付き添って受診する場合は、バイタルサインや普段の身体状況を記したメモを手渡している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制の訪問看護ステーションから週に1度訪問があり、細かな変化も伝えて頂いています。また、分からない事は相談に乗って頂いています。急変時には主治医と連携し対応しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をする際にはグループホームでの生活のが分かるようにサマリーを医療機関に渡しています。また、退院前には医療機関に出向き、入院中の様子や退院後の注意点などお聞きし、情報交換等行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と今後の方針についてある程度の段階から話し合いを行っています。事業所で出来る範囲を説明しご家族様と方針を共有しケアをしています。	重要事項説明書に「重度化した場合の対応に係る同意」という項目を設け、入居時に説明し同意を得ているが、「できること、できないこと」を明記した事業所としての重度化や終末期に向けた方針を策定するまでに至っていない。	事業所と家族等との意向がずれたまま重度化や終末期の時期を迎えることのないよう、事業所として「できること、できないこと」を明記した方針を策定し、利用者や家族等から書面にて同意を得ていくことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や心肺蘇生などの研修に参加したり、勉強会等を行っています。今後も定期的に研修等を行い、急変時に慌てず対応出来るように実践力を身に付けたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練等を行っています。今後は地域の方も一緒に避難訓練等を行えるように協力体制を作りたいと思います。	夜間想定を含む避難訓練を2ヶ月に1回実施し、報告書を作成しているが、地域住民の避難訓練への参加など、災害時の協力体制を築くまでに至っていない。 災害に備えて食糧や飲料水、備品などを備蓄し、箱に賞味期限を記載して管理をしている。	運営推進会議を通して地域住民に訓練への参加の呼びかけなどを再度、目標達成計画に掲げ着実にステップアップしていくことが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である入居者様を尊重しプライバシーを損ねない様声掛け等に気を付けています。	職員は利用者を人生の先輩として人格を尊重する中で、排泄誘導の声かけを耳元でするなど、配慮をしている。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかるロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	たくさんの選択肢を与えるのではなく、選びやすい声掛けをするようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースにならないように入居者様に声掛けを行いながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期定に訪問理容があります。また、入居者様に洋服を選んで頂けるように声掛けを工夫しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に食事形態を見直し、その時々状態に合わせて食事を提供しています。食事の準備は職員が対応していますが、後片付けは入居様と一緒にを行っています。	事業所職員が作る主食や味噌汁、和え物以外の調理済副食が食事宅配業者から届くサービスを利用しており、季節行事食や月1回の“ご当地グルメ料理”を業者と連携しながら提供している。 敬老会の際には、家族等も招待して職員手作りの赤飯や煮物をふるまっている。 利用者は職員の支援を得ながらテーブル拭きやおしぼり配り、下膳、食器拭きなどを行っている。 利用者と職員は、テーブルを囲み同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録する事で食事量が少ない入居者様には嗜好品を召し上がって頂いたり、栄養剤など処方して頂き対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後居室で個々の口腔内の状態に合わせて口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の身体レベルに合わせて排泄介助を行っています。	職員は排泄チェック表により利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、排泄サインを見逃さずにトイレ誘導をしている。 利用者の状態を考慮しながら、「まずはおむつを外してみよう」との方針のもと、おむつ外しに挑戦するとともに、献立に牛乳を加えるなど、薬に頼らないスムーズな排泄に向けた支援を行なっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然に排便出来るよう水分補給を促し、便秘が継続しないよう、主治医や訪問看護に相談しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ある程度職員が入浴に状況を確認し、声掛けをさせて頂いていますが、入居者様の意志を尊重しながら入浴を行っています。	週2回から3回入浴ができるよう支援しており、希望すれば毎日や夜間帯の入浴も可能となっている。 柚子湯などで季節を感じ、楽しみながら入浴ができるよう工夫している。 体調が悪いなどの理由で入浴ができない時には、居室で清拭などの支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごして頂きたいと思いますが、入居者様の状況に合わせて休息して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容の確認、副作用を把握し、不明な点は主治医、薬剤師に確認しています。服薬時には職員2人で確認して誤薬を予防し、チェックシートの記入で飲み忘れ予防に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴の中から支援をしたり、日常の会話の中から楽しいと思われる事を見つけ支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそって外出する機会はありませんが、季節のお花を見に出掛ける行事を行っています。また、ご家族様と一緒に墓参りなど出掛けられる方もいます。	利用者は月に数回事業所の近隣を散歩をしているほか、同一法人が所有する他事業所のリフト車を使用して、年に数回車いすの利用者も一緒に、季節の花見に外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に入居者が管理する事はありませんが、手元にお金が無いと不安になられる入居者様の場合はご家族様の了解を得て所持される場合もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今現在は入居者様から電話を掛けたい。などの訴えはありませんが、希望がある際には電話を掛けたり、手紙を出したり出来る様に支援したいと思います。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	勘違いするような室温にせず、その季節に合わせた温度を保つようにしています。また、不快に感じるような音や光に配慮しています。	中庭に面した広く明るい居間兼食堂の一角に、小上がりの畳造りスペースを設けるとともに、廊下には季節の切り絵や貼り絵を飾るなど、家庭的な雰囲気づくりに努めている。 職員は掃除用具の転倒など、不要な物音で驚かせないように配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内のテーブルや椅子の配置を考え入居者様同士の交流を大切にしています。また他フロアの入居者様との交流も大切にしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境が変わる事がないように使い馴れた物、馴染みの物を用意して頂き、安心して生活できる様配慮しています。	家族等の支援を得ながら、使い慣れたテレビや籐椅子などのほか、家族等の写真や仏壇、観葉植物を居室に持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	誤って怪我や誤飲防止の為に掲示物に画鋲は使用していません。入居者様が安全に生活出来る様見守りや声掛けを行っています。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームみかん

作成日 平成28年2月26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	8	把握した情報を記録を全職員で共有出来ていない。	全職員の情報の共有	全職員が、今一度これまで得た情報を確認する。	3ヶ月
2	9	生活記録に入居者の細かな表情等が記載されていない。	生活記録の充実化。	生活記録の記入の仕方の勉強会を行い。	6ヶ月
3	12	終末期を迎えるにあたり、事業所で出来る事・出来ない事を明記した方針を算策定されていない。	終末期の迎えた入居者に対して、事業所と家族の意向がずれない。	本部の含め検討する。	4ヶ月
4	13	地域住民も交えて訓練参加の呼び掛けを行う。	災害時地域住民の協力が得られる。	地域の方と交流する機会を増やししながら、訓練の際の参加呼び掛けを行う。	3ヶ月
5	6	身体拘束を行う際の記録が無い。	身体拘束を行わない介護を目指す。	身体拘束委員会の担当者を中心に拘束の必要性・行う際の記録の仕方を検討していく。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。